

映画上映& 監督トークショー

バリアフリー字幕付き上映

ボイスインクルーシブ主催
宍戸大裕フィルムシリーズVol.1
この街で生きる～言葉をこえて～

道

この街で暮らす

草

監督 宍戸大裕

みちくさ

2025

11.1 土

11:45開場 12:45開演

場所	杜のホールはしもと 多目的室 JR線「橋本駅」北口すぐ
内容	第1部 映画上映 12:45-14:30 第2部 トークショー 14:50-15:50
料金	1,000円 (未就学児、介護者は無料) ※2/15 Vol.2 「杏かなる」上映会とセット割あり
定員	100名 (先着順)
申込	コチラのQRコードから申込ページへ▶
問合せ	voice.inclusive2025@gmail.com



「道草」って こんな映画

たったひとりの世界では、
自分は見えない。
道草をしながらふたりで
歩く散歩は、この世界とつな
がり、相手の瞳に自分を映し
出す時間。
こんな時間をすべての人が
持つことができれば、わたし
たちはもっともっと優しくな
れるだろう。

瀬藤あや（映画監督）

はみ出していく。 よし、はみ出していこう。

暮らしの場所を限られてきた人たちがいる。自閉症と重度の知的障害があり、自傷・他害といった行動障害がある人。世間との間に線を引かれ、囲いの内へと隔てられた。そんな世界の閉塞を、軽やかなステップが突き破る。東京の街角で、介護者付きのひとり暮らしを送る人たち。タンポポの綿毛をとばしブランコに揺られ、季節を闊歩する。介護者とのせめぎ合いはユーモラスで、時にシリアスだ。叫び、振り下ろされる拳に伝え難い思いがにじむ。問われることはしんどい。けど、問わらなくなることで私たちは縮む。だから人はまた、人に近づいていく。

<知的障害者の暮らしとは？>

知的障害がある人の暮らしの場は広がってきていますが「重度」とされる人の多くは未だ入所施設や病院、養元で暮らしているのが実情です。

2014年に重度訪問介護制度の対象が拡大され、重度の知的・精神障害者もヘルパー付きのひとり暮らしが出来る可能性は大きく広がりました。

そんな中、16年夏には相模原障害者殺傷事件が起きました。この街で誰かがともにいるために、新しい選択肢を見つめてみませんか？

監督 宍戸大裕

映像作家。学生時代、高尾山のトンネル開発と反対する住民を描いたドキュメンタリー映画『高尾山 二十四年目の記憶』（2008年）でデビュー。監督作に東日本大震災で被災した動物たちと人々を見つめた「犬と猫と人間と2 動物たちの大震災」（2013年）、人工呼吸器を使い地域で生活する人を爽やかに描いた「風は生きよという」（16年）、自閉症と知的障害のある人が介助者と地域で暮らすさまを映し出す「道草」（19年）、ALS当事者と支援者の日常を描いた「杳かなる（はるかなる）」（25年）がある。現在、クマと人が棲み分けながら生きられる世界を模索する映画を制作中。

聴き手 羽石英里

ボイスインクルーシブ代表
昭和音楽大学客員教授



安心してご参加いただくために

字幕付き上映／車椅子スペースあり／途中入退場OK
スタッフまでお気軽にお声掛けください

ボイスインクルーシブとは
<http://voiceinclusive.jimdoofree.com/>

「違いを大切に」と「違いを越えて」ひとりひとりが
自分らしく生き、認め合えるインクルーシブなコミュ
ニティーづくりを目指して活動しています。